

平成 28 年 9 月 3 日 稲門フィラテリー 第 127 回切手教室

「世界の浮世絵切手」

～その発行の歴史と傾向について～

森下 幹夫

＜浮世絵切手発行枚数＞

日本：約 300 種 外国：約 1300 種 合計約 1600 種もの浮世絵切手が発行されている。

（範囲：菱川師宣～明治期まで）

＜日本における発行について＞

1. 最初の浮世絵切手：1946（昭和 21）年 8 月 1 日発行、第一次新昭和切手 1 円（青）、
葛飾北斎の富嶽三拾六景「山下白雨」
2. 主なもの：切手趣味週間（1947～）、文通週間（1958～）、国際切手展開催時、相撲絵シリーズ（1978-79）、
ふるさと切手（江戸名所と粋の浮世絵）（2007-11）、浮世絵シリーズ（諸国名所と江戸美人）
（2012～）
3. 特徴：北斎と広重が圧倒的に多い、ついで歌麿・写楽と続く。意外と作者（浮世絵師）は限定されている。（近年、菊川英山、鳥高斎栄昌が加わった）

＜外国における発行について＞

1. 歴史（大量発行の歴史）
 - I 期：1960 年代後半から 1970 年代前半にかけての発行
 - II 期：昭和天皇崩御の伴う平成改元に合わせての発行（1989-90）
 - III 期：広重生誕 200 年記念（1997）
 - IV 期：北斎没後 150 年記念（1999）
 - V 期：日本国際切手展 2001（フィラ日本 2001）を記念しての発行（2001-02）
 - VI 期：「日本の美術」と称する発行（2002-03）
2. 発行国とその特徴
 - (1) I 期の初期、1960 年後半については、アラブ土候国（現在のアラブ首長国連邦を構成した首長国）を中心とした発行。（シャルジャ・アジマン・マナ・フジエ等）

※当時、これら土候国の切手は、郵便使用を目的としない切手（ある意味ラベル）として有害扱いされていた。（しかし、ミッヘルカタログには採録）

1970 年代に入り、大阪万博の開催もあり、他の国からも発行されてきたが、やはり発行の中心は同地域の国が大半。
 - (2) II 期以降は、アフリカや中米カリブ海上の国々からの発行が大半を占めるようになった。
 - (3) 共通して言えることは、自国での郵便使用を殆ど目的としない、世界各地（主に日本）の郵趣家向けの切手であること。（健全な発行ではない！）

3. 作者（浮世絵師）の特徴

- (1) 日本切手と同様に北斎と広重が断トツに多い。（それぞれ、生誕・没後として取り扱われていることも要因）
- (2) しかし、日本切手には全く採り上げられていない、多くの絵師の作品が発行されている。
浮世絵専門の文献にも、なかなか登場しない絵師たち、例えば上方浮世絵師。
→結果、浮世絵史を切手で表現することが出来た！

4. 最近の発行情形（ここ 10 年位の傾向）

- (1) ここ 10 年くらいは、これまでの様な複数の国から一度に大量に発行されることはなくなった。
第Ⅵ期後、2004～09 年コンゴ、モザンビーク、サントメプリンシペから単発的に発行されたが、
2010 年以降は他の国を含めて単発的に発行される程度に落ち着いている。
- (2) 日本国際切手展 2011 においても、浮世絵切手はほんの僅かしか発行されなかった。

5. まとめ

- (1) 外国から発行された浮世絵切手について言えば、
 - ・発行されるとなると、一時期にまとまって発行される傾向がある。
オムニバス（数カ国以上が同じ目的で同じ主題のもとに発行する切手群）的に発行されている。
 - ・切手発行政策面から見ると、決して健全なものとは言えない発行形態が殆ど。
（外貨稼ぎのエージェント会社が介入したものが大半）
 - ・多種多様の題材があり、日本切手以上にバラエティーに富んでいる。
- (2) 上記発行期を見ると、第Ⅰ期は日本の高度成長期、第Ⅱ期はバブル経済期、そして日本国際切手展 2001 までが、郵趣界が元気であった時期か？
2003. 4 日本郵政公社化、2007. 10 日本郵政(株)発足、大量の日本切手の発行に収集家も収集が追い付かず、日本切手だけでも大変なのに、エージェント会社介入見え見えの外国切手まで手が回らないのが現状。エージェント会社も日本では商売にならぬと悟ったか？
「外貨目的の切手は繁栄国を示す」と言われている。日本の郵趣文化が永続的に発展することを願いたい。

以上

浮世絵切手発行小史

切手の図案に浮世絵が登場したのは、1946年8月1日発行の第一次新昭和切手1円、葛飾北斎の富嶽三十六景の一つ「山下白雨」が最初です。

その後、日本切手においては、切手趣味週間や国際文通週間に多く採り上げられ、また近年はふるさと切手東京版に「江戸名所と粋の浮世絵」と題して2007年から毎年発行されております。その数は、切手カタログのメイン番号でおよそ190種(※1)を数えております。

一方、外国における浮世絵切手の発行は、1967年、現在のアラブ首長国連邦(UAE)を構成する首長国(アラブ土侯国)のうち、シャルジャ発行のものが最初と思われます。以来、これらアラブ土侯国が中心となって、日本開催の国際行事(大阪万国博、東京国際切手展、札幌冬季オリンピック等)に合わせ(ある意味、便乗して)、70年代前半まで発行してきました。

その後、しばらくの間、外国での発行は単発的なものでしたが、1989年、昭和天皇崩御に伴う平成改元の際、日本の美術切手が大量に発行され、その中に多くの浮世絵切手が含まれていました。しかし、その発行国の大半は、アフリカやカリブ海沿岸、南太平洋上の小国であり、切手をビジネスとしたエージェンツ会社が企画したオムニバス発行の切手群でした。

これを皮切りに、「歌川広重生誕200周年」「葛飾北斎没後200年」「日本国際切手展2001」と、続けざまに大量の浮世絵切手が発行され、その総数はおよそ970種(※2)にものぼっております。

このコーナーでは、日本と外国における浮世絵切手発行状況を小史という形でまとめてみました。

※1 日本切手専門カタログ(戦後編) 2009年10月発行
(カタログ発行後の切手発行数も加えてあります)
※2 時代区分は「豊川師宣から明治期まで」とし、前史としての近世風俗画等、大正時代の「新版画」は含みません。

外国発行の初期浮世絵切手

外国切手に浮世絵が初めて登場するのは1967年からで、現在のアラブ首長国連邦(UAE)を構成する首長国の国々で外貨獲得を目的とし大量の切手を発行し、その中に日本の浮世絵も取り上げられた。その後70年代初めまで、これらの国が中心となって切手を発行し続けた。本リーフもその一種である。



シャルジャ(アラブ土侯国) (1967)



カンリ(アラブ土侯国) (1967)

~~~~~ <その後の外国浮世絵切手発行の歴史> ~~~~~

外国切手における浮世絵切手の発行を見ると、基本的に日本でのイベントに合わせ、切手エージェンツが間に入ってコレクター向けに発行されており、1989年以降はオムニバス切手(※)として発行されている。

- ① 1970~72 大阪万国博・東京国際切手展・札幌オリンピックを記念しての発行
- ② 1989 平成改元に合わせ「日本の美術」と称しての発行
- ③ 1997 歌川広重生誕200周年を記念しての発行
- ④ 1999 葛飾北斎没後150周年を記念しての発行
- ⑤ 2001 日本国際切手展2001に記念しての発行
- ⑥ 2002~03 「日本の美術」と称しての発行

※オムニバス切手: 数カ国以上が同じ目的で同じ主題のもとに発行する切手群

### 1970年代前半の外国浮世絵切手

1970年に開催された大阪万国博をはじめ、東京国際切手展(当事国の日本では切手すら発行なし)、札幌オリンピックなど日本開催の行事に合わせ、多くのジャポニカ切手が発行され、浮世絵もその題材として多く採り上げられたが、発行国の主役はアラブ土侯国であった。



アジマン(アラブ土侯国) (1970)

《東京国際切手展》

歌川広重



マナマ(アラブ土侯国) (1971)

《東京国際切手展》

喜多川歌麿

《札幌オリンピック》

鳥居清長

鳥居清長



パラグアイ (1971)

チャド (1972)

### アメリカ切手や国連切手に登場

外国の浮世絵切手の大半は、初期においてはアラブ土侯国を中心に、一部社会主義国からの発行であり、1989年以降は、アフリカやカリブ海沿岸諸国の小国などであり、いわゆるメジャーな国々からのものは少ない。その少ない中、アメリカおよび国連からも浮世絵切手が発行されている。



アメリカ (1974)

万国郵便連合100周年を記念する切手に、ラファエロやゴッロとともに、日本の北斎の作品が採り上げられている。



国連 (1990)

平成改元に伴う日本の美術切手

1989年1月、元号が平成に改められると、それに合わせ、アフリカやカリブ海沿岸諸国をはじめとする小国で「日本絵画」を題材とした切手が発行され、浮世絵切手も多く採り上げられた。ガッサーマヤン部分に「昭和」や「平成」の文字が入られている。その後の日本絵画を題材としたオムニバス切手の先駆でもある。

葛飾北斎<四谷>



セントビンセント・グレナディーン諸島(1989)

歌川広重<朝顔>



セントビンセント(1989)

歌川広重<鶴と亀>



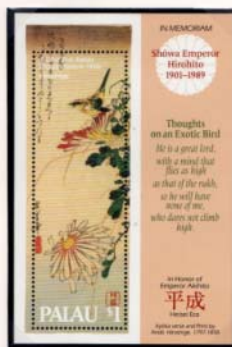
ガンビア(1989)

歌川広重<四十雀と芍薬>



ガンビア(1989)

歌川広重<菊の中の小鳥>



パラオ(1989)

広重生誕200周年

歌川広重生200周年にあたる1997年から98年にかけて、15か国から合計180種あまりの切手が発行されたが、発行国は平成改元時の日本美術切手シリーズと同様、アフリカやカリブ海沿岸諸国を中心とした小国ばかりであった。日本においても、三代豊国が描いた広重の肖像画が文化人切手として発行された。

三代豊国<広重像>

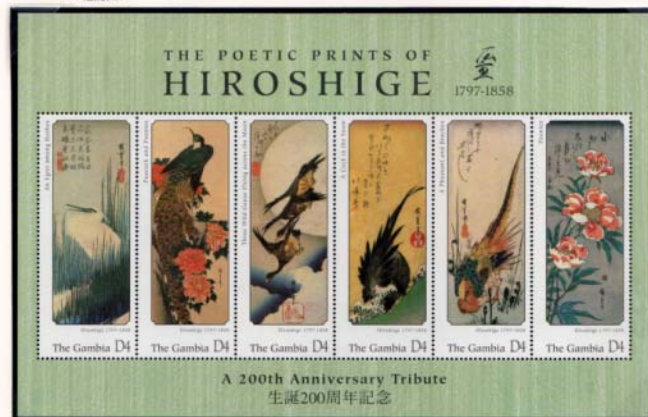


ミクロネシア(1997)

<源氏物語 観梅>



<花鳥画>



ガンビア(1997)

北斎没後200年

葛飾北斎没後200年にあたる1999年、21か国から合計270種もの切手が発行された。発行国はこれまでと同様、アフリカやカリブ海沿岸、南太平洋上の国々を中心とした小国で、オムニバス切手として、同一パターン(大半が6面小型シート及び単独小型シート)での発行である。

左上から大井川、子規・秋井、遠江山中、上野の晩鐘、龍、吉原の夜雨、美人画、諸国遊覧・木曾路ノ奥門登院ノ境、美人画>



チャド(1999)

日本国際切手展2001とその後の発行

2001年開催の日本国際切手展に際して、コレクター目当てに大量の日本絵画を題材にした切手が発行された。ロゴを入れることで記念の意を表しているが、発行国はこれまでと同様の国々を中心であった。さらに終了後の2002~03年にかけても、特に意味もなく日本の美術と称してオムニバス発行された。

(左から) 喜多川歌麿・鳥居清長・横井堂安度・(都路華香)・鈴木春信



ガイアナ(2001)



ソマリア(2001)

ウガンダ(2003)

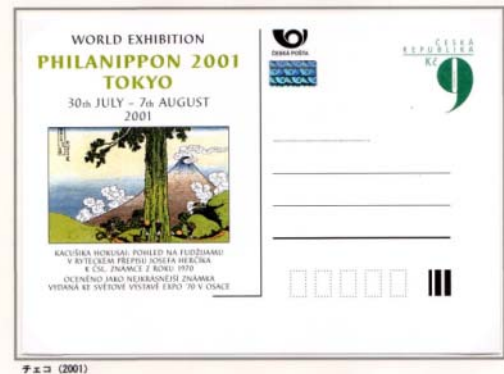
セントキッツ(2003)

パラオ(2002)

## 神奈川沖浪裏



## 甲州三島越



## 品川



## 川崎



## 神奈川



## 保土ヶ谷



## する賀てふ



## 切手でたどる浮世絵の歴史

このコーナーでは、切手を通して「浮世絵の歴史」を表現してみました。

前史としての近世初期風俗画から近現代の新版画といわれた作品までを、第一章から第六章までに表現、さらに最終章として浮世絵が印象派に与えた影響を表現してみました。

展示するにあたり、1枚として切手に採用されていない浮世絵師、また逆に多くの切手が発行されている絵師と片寄りもあり、バランスを考慮し、多数発行されている絵師については、一部展示を省略してあります。

特に圧倒的発行数を誇る北斎と広重については、単独作品として別に紹介していることから、このコーナーでは1リーフにとどめてあります。

尚、絵師としての業績や今日の評価と切手採用数(=本展示リーフ数)とが必ずしも一致しておらず、一般の浮世絵史本のように業績、評価に応じた紹介とはなっておりません。

フレーム構成は以下の通りです。

|         |     |                    |              |
|---------|-----|--------------------|--------------|
| 1F      | 第一章 | 前史 (近世初期風俗画～寛文美人図) |              |
| 2F      | 第二章 | 初期 (菱川師宣の登場～錦絵誕生前) | 1673～1751-54 |
| 3～6F    | 第三章 | 中期 (春信の錦絵創始～歌麿の死)  | 1756～1806    |
| 7～8F    | 第四章 | 後期 (英山の登場～広重の死)    | 1807～1858    |
| 9～10F前半 | 第五章 | 終期 (横浜の開港～明治終焉)    | 1859～1912    |
| 10F後半   | 第六章 | 近代                 |              |
|         | 終章  | 外国への影響             |              |

(F:フレーム)

時代区分をするにあたっては、「図説浮世絵入門」(河出書房新社)と「カラー版浮世絵の歴史」(美術出版社)を参考としました。

切手の上部に作品名を記載しましたが、出品者の調査によっても作品名が判明しなかったものは記載しておりません。また下部に発行国および発行年を記載してありますが、日本発行のものは発行年のみの記載としてあります。

## 第二章 初期

### 菱川 師宣

生没年、寛永7年(1630)?～元禄7年(1694)。安房国保田生まれ。16歳の頃、江戸に出て土佐派、長谷川派の作品を模して技を磨き、やがて版本の挿絵の仕事にたずさわることになった。次第に人気を得て流行作家となった浮世絵版画の創始者である。

<歌舞伎団扇風>

パラグアイ(1970)



タークス・カイコス諸島(2001)



リベリア(2001)



ガイアナ(2001)

## 第三章 中期

### 鈴木 春信

<雨夜の宮詣>



パラグアイ(1970)



カシリ(アラブ土曜国)(1967)



ベトナム(1994)



アンチグア・バーブダ(2001)

## 第三章 中期

### 勝川 春章

<婦女風俗十二ヶ月図>

(九月、十月、十一月)



(十二月)



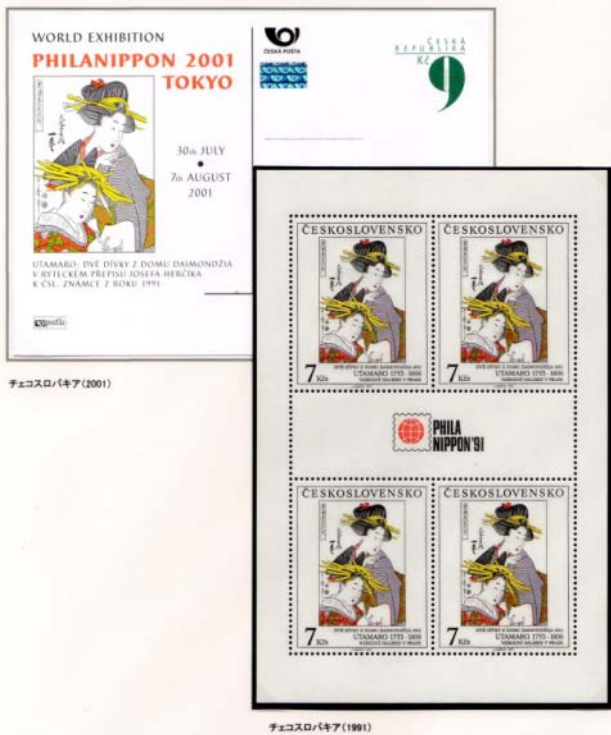
(1986)

ガイアナ(2002)

### 第三章 中期

#### 喜多川 歌麿

<青楼美人名花合せ>



チェコスロバキア(2001)

チェコスロバキア(1991)

### 第四章 後期

#### 歌川 国芳

生没年、寛政9年(1797)〜文久元年(1861)。初代寛政の弟子で当初はあまり売れず不遇の時代を送っていたが、「通俗水戸伝豪傑百八人」の一冊の武者絵シリーズが大ヒット、一躍名を広めた。その後も風景画、美人画、戯画など幅広いジャンルに作品を残した。

<通俗水戸伝豪傑百八人之一冊  
五郎頼重役者>



パラグアイ(1972)

<徳川義士伝  
片岡伝五郎門角舟>



キューバ(1991)



タークス・カイコス諸島(2003) ・・3国とも・・



タークス・カイコス諸島(2003)

### 第五章 終期

#### 豊原 国周

俳諧百種之内

<尾上菊五郎の師匠>



ガンビヤ(2003) ・・4国とも・・

<尾上菊五郎の師匠國貞>



<尾上菊五郎の山本勘助>



<尾上菊五郎の清玄>



<三代沢村田之助の  
愛憎三郎孝隆>



リベリア(2003) ・・4国とも・・

<河原崎権十郎の  
曾我五郎時義>



<五代大谷友右衛門の  
五郎光>



<五代飯島三郎の  
新田四郎左衛門>



<四代中村定藏>



ガイアナ(2003) ・・4国とも・・

<九代市川團十郎の助六>



<尾上辰之助>



<柳代市川左衛門>



### 第五章 終期

#### 大蘇(月岡) 芳年

<風俗三十二相>

ねむさう  
福娘の風俗



のみたさう  
町茶番二助人之風俗



むまさう  
女郎の風俗



しだらなさう  
京都茶子風俗



すべしさう  
茶楼の風俗



にくらしさう  
名古屋嬢之風俗

はずかしさう  
むすめの風俗

グレナダ(2003) ・・本リーフ全図・・

## 第二章 初期

### 鳥居派の絵師

#### 鳥居清信

生没年、寛文4年～享保14年。ひさの歌舞伎役者の絵姿を初めて版画にしたといわれる鳥居派の開祖。



セントキッツ (2001)



セントキッツ (2001)



ウガンダ (2001)



ウガンダ (2001)

#### 二代鳥居清信

生没年、宝永3年～宝暦13年。初代清信の門人。役者絵及び美人画を描いたが、儼然や気品は初代清信に比べて落っていた。

#### 二代鳥居清信

生没年、宝暦15年?～宝暦2年。初代清信の三男、二代清信と同一人との説もある。主に浮絵、紅襷絵、肉筆画を描いた。



ウガンダ (2001)



パラオ (2001)



ウガンダ (2001)

#### 初代鳥居清満

生没年、享保20年～天明5年。鳥居派の三代目として、鳥居派の様式を守りながら、優美な色感の画風を作りあげた。

#### 鳥居清広

生没年不詳。鳥居派に入門し、宝暦初年前後に石川重信に似た紅襷絵の美人が多数発表された。

## 第三章 中期

### 一筆斎文調

生没年不詳。それまでの鳥居派の個性の無い役者絵とは異なる似顔を描くことで藤川春草とともに人気を博した。



シエラレオネ (2001)



リベリア (2001)

### 北尾重政

生没年、元文4年 (1739)～文政3年 (1820)。女の気品と色香と写実的に表現した北尾派の開祖である。



パラグアイ (1970)



シエラレオネ (2001)

### 北尾政濱 (山東京伝)

生没年、宝暦11年 (1761)～文化13年 (1816)。重政の弟子で戯作者としても知られる。代表作は、天明3年、新進版元萬屋重三郎の出世作ともなった『青楼名妓自筆集』である。



セントビンセント及びグレナディーン (2001)



シエラレオネ (2001)

## 第四章 後期

### 上方浮世絵

江戸時代後期には、上方でも役者絵を中心に浮世絵版画が出版されていた。『香雪 (東) 錦繪』とも呼ばれた江戸絵が江戸土産として上方へ運ばれ、触発されてできたものである。流光斎如主が細版の役者絵を制作、上方浮世絵の祖と言われているが、残念ながら切手の発行はない。

#### 柳川重信



セントキッツ (2001)

#### 柳斎重春



シエラレオネ (2001)



リベリア (2001)

#### 松好斎 半兵衛



シエラレオネ (2001)

#### 春好斎 北洲



リベリア (2001)

#### 春梅斎 北英



リベリア (2001)



モンゴル (2003)

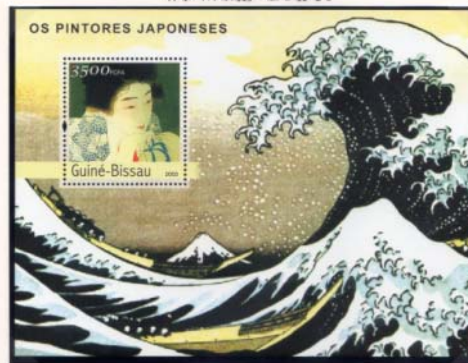


リベリア (2001)

## 北斎

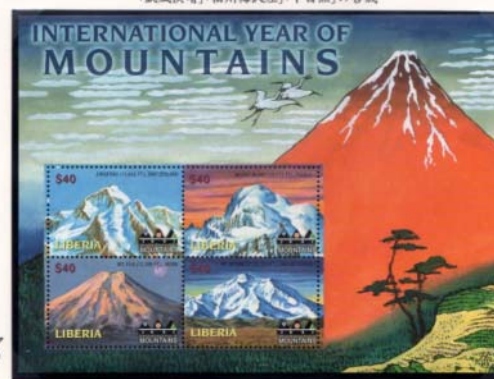
## 富嶽三十六景

ちよつとおかしな富嶽三十六景  
『神奈川沖浪裏』の左右裏返し



ギニア・ビサウ (2003)

『飢風快晴』『相州梅沢庄』『下目黒』の合成



リベリア (2002)